2019 年 2 月
JETRO ドバイ

アブダビ首長国の概況とビジネス機会

０．はじめにーUAE の「アブダビ首長国」

アラブ首長国連邦（UAE）は、7 つの首長国からなる連邦国家である。その構成を概観すると、首長が連邦大統領を兼ね、UAE 全体国土の 8 割、GDP の約 7 割、人口の 3 割（自国民では 4 割強）、原油生産の 9 割を占める**アブダビ首長国**が大きな地位を有する。次いで**ドバイ首長国**の地位が高く、首長が連邦副大統領と首相を兼ね、GDP の 3 割・人口の 3 割を占めている。その他 5 つの首長国は**「北部首長国」**と総称され、あわせて残りの GDP の 1 割、人口の 3 割弱を構成している。

表①：UAE における首長国別の経済・人口規模

首長国名	首長家	面積	名目 GDP（十億 USD）	人口（万人）	自国民人口（万人）
アブダビ	ナヒヤーン家	67,340 ㎢	262 (2014)	291 (2016)	40 (2010)
ドバイ	マクトゥーム家	3,885 ㎢	92 (2014)	270 (2016)	17 (2010)
シャルジャ	カーシミー家	2,590 ㎢	31 (2014)	141 (2015)	15 (2010)
アジュマン	ヌアイミー家	259 ㎢	4 (2013)	50 (2017)	4 (2010)
ラス・アル・ハイマ	カーシミー家	1,684 ㎢	4 (2009)	35 (2015)	10 (2010)
フジャイラ	シャルキー家	1,580 ㎢	3 (2009)	23 (2016)	6 (2010)
ウンム・アル・カイワイン	ムアッラー家	720 ㎢	0.6 (2009)	5 (2005)	2 (2010)
UAE 全体	―	83,600 ㎢	385(2014)	1,043(2018)	95(2010)

出所： The Official Portal of the UAE Government、IMF 等より作成

注）各項目の数値の後のカッコは該当年を示す。UAE 政府の公表する統計は速報性に乏しく、現在、出所ウェブサイトで確認できる最新値を記載

また、UAE 全体における日本企業の進出状況は、2017 年 5 月時点でジェトロ・ドバイ事務所が実施した推計によると、合計 442 事業所となっている。内訳は、ドバイが最も集中しており 345 事業所(78%)、アブダビが主に石油・ガス関連や銀行・商社等の企業を中心に 73 事業所(16%)が立地しており、北部首長国は合計で 24 事業所(5%)にとどまっている状況である。

UAE では、トップの GDP と政府系企業を多く有するアブダビ、ハブ機能を強化するドバイ、両都市と比較して投資コストが低廉で各種インフラを整備しつつある北部首長国と、各首長国において産業構造や政策が異なり、それぞれ特色のあるビジネス機会が存在する。本稿では首長国ごとにシリーズ解説するなかの一環として、**「アブダビ首長国」**に焦点を当てる。

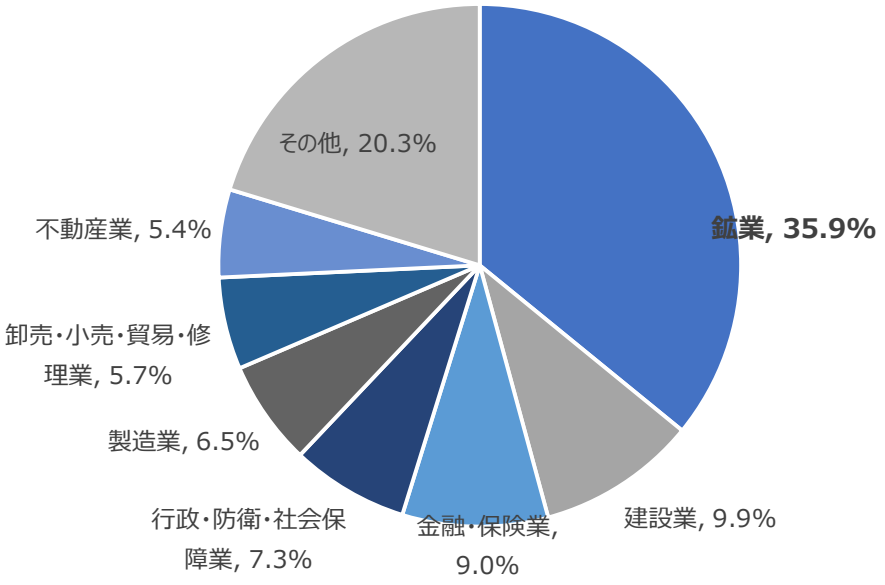
Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

1．アブダビ首長国の特徴―産業構造・経済動向

アブダビは UAE の面積の 8 割を有し、首長が連邦大統領を兼任し政治を牽引するとともに、豊富な石油資源によって経済的にも連邦を支える、リーダーとしての役割を担う首長国である。連邦を構成する 7 つの首長国のうち、面積に加え GDP もトップ、外国籍を含む居住者人口ならびに自国民人口も最も多い。UAE は世界第 7 位の石油確認埋蔵量を誇るが、そのうちの 90%以上はアブダビが占めており、UAE 国内の製油所や石油化学プラントといった施設の多くはアブダビ内に立地している。

アブダビ首長国の GDP の構成をみると、最も大きいのが鉱業である。これは前述の通り、アブダビが UAE における石油埋蔵量の多くを有し、油田開発等が主要な産業であることが起因している。その他、建設業が約 10%、金融・保険業が約 9%、行政・防衛・社会保障業と製造業がそれぞれ約 7%と続く。

図：アブダビ首長国の GDP 構成比（2017 年）



出所：Statistics Centre Abu Dhabi

依然としてアブダビの GDP の 35%を占める鉱業であるが、2014 年の同割合が 50%を超えていたことを考えると、産業の多角化が進みつつあることが言えよう。実際に、ドバイと比較すると少ないもののアブダビも多くのフリーゾーンを有しており（詳細は後述）、多くの外資系企業が拠点を構えている。観光に関しては、アブダビには 2016 年時点で 440 万人（対 2013 年比で 8.8%増）の観光客が訪れており、今後の更なる観光資源の開発や 2020 年のドバイ万博の開催等の要素を考慮すると、観光客数は今後も増加していくものと考えられる。

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

現在アブダビは、2007 年発表の「プラン・アブダビ 2030（Plan Abu Dhabi 2030）」と 2008 年発表の「アブダビ経済ビジョン 2030（Abu Dhabi Economic Vision 2030）」という 2 つの長期国家目標を掲げ、経済の多角化と都市開発に積極的に取り組んでいる。プラン・アブダビ 2030 は、アブダビの人口が 300 万人まで拡大し、アブダビが国際都市へ成長すること前提にした、水、交通、電力などのインフラ投資計画である。アブダビ経済ビジョン 2030 は、石油・ガス部門以外の重点産業を育成して経済を多角化させ、原油輸出に依存しない経済成長を実現すること、そして 2030 年時点で GDP4,000 億ドル（2007 年の約 5 倍）を達成することを目標としている。重点産業にはエネルギー産業をはじめ、石油化学、金属（アルミ、鉄等）、航空・宇宙・防衛産業、医療業、観光業、運輸・物流・貿易業、教育産業、メディア・通信業等が含まれている。この産業多角化を実現するため、アブダビは大規模な港を備えたハリーファ工業地域（KIZAD）の建設に着手し、ここには世界屈指のアルミ精錬企業であるエミレーツ・グローバル・アルミニウム（EGA）などの国営企業を筆頭に、多くの製造業の立地が進んでいる。

ドバイがこれまで商業・観光を中心に発展してきていることと比較すると、アブダビは石油関連のビジネスによって発展してきたと言えるが、ドバイ同様、観光客を多く惹きつけるために様々な開発を行っている。特に 2007 年に完成した「シェイク・ザーイド・グランド・モスク」は、ドバイにある世界一の高さを誇る超高層ビル「ブルジュ・ハリーファ」と並ぶ、UAE の人気観光スポットである。そのほか、アブダビ市街の東側に位置するヤス島はエンターテイメントの中心地として頭角を現しつつあり、年に一度 F1 アブダビ・グランプリが開催される「ヤス・マリナ・サーキット」や、世界初のフェラーリブランドのテーマパークである「フェラーリ・ワールド」、世界最大規模の屋内テーマパークである「ワーナーブラザーズ・ワールド」、UAE で 2 番目に大きい「ヤス・モール」などの商業施設が存在する。また、アブダビ市街から車で 10 分ほどのサディヤット島には、アラブ初のユニバーサルミュージアムである「ルーブル・アブダビ」が 2017 年 11 月に開業した。この様にアブダビにはアブダビ市内及びその周辺の島に多くの観光資源があり、世界中から観光客が訪れている。

アブダビはアブダビ中心地（アブダビ市）以外にも、「アル・アイン」、「リワ」、「ルワイス」等の特徴的な都市・地域がある。アブダビ市から約 160km 東に位置するアル・アインは、前首長（初代連邦大統領）のシェイク・ザーイドの出生地で、アブダビ市に次ぐ第 2 の都市となっている。アブダビ西南部に位置する、リワ・オアシスには、弓状に広がる 100km のライン上に約 20 の村々が点在し、そこでは、世界中で最も荘厳な砂原を見ることができる。近年高級リゾートホテルも建設され、訪れる外国人観光客も増えつつある他、植林プロジェクトが盛んに進められていて、農産物の完全自給自足を達成するために、農業開発も活発に行われている。アブダビ市から約 200 ㎞西、アブダビ市とカタールを結ぶ道路の中間地点に位置する工業地域ルワイスには連邦最大の製油所・肥料工場等が立地しており、1970 年代より「UAE のエンジン」呼ばれているほど重要な地域となっている。アブダビ国営石油（ADNOC）は、2015 年にルワイス製油所の生産能力を世界最大級（81.7 万 BPD）にまで拡張させるなど、この地域はアブダビ首長国のエネルギー経済の基盤を支える存在となっている。また、ルワイス西方約 50km に位置するカタールとの国境に程近いバラカでは韓国の企業連合により UAE 最初の原子力発電所の建設がされた。

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

2. アブダビ首長国のビジネス環境

アブダビにおいて外資がマジョリティを持つかたちで企業設立可能な主要フリーゾーンは以下の通り。

表② アブダビにおけるフリーゾーン (出所：各フリーゾーンおよび各社ウェブサイトより作成)

名称	特徴・主な操業企業
アブダビ空港フリーゾーン（Abu Dhabi Airport Freezone）	● アブダビ国際空港の敷地内に整備されたビジネス・パーク。 ● 同フリーゾーンの主な開設目的は、航空、宇宙、空港サービス、物流、貿易、運輸産業といった事業の誘致であり、事業所、ビジネス・センター、倉庫など多様な施設が用意されている。 ● Aramex, DANZAS, TNT, efl（Expo Freight）, DHL などの企業が、アブダビ・エアポート・フリーゾーンに拠点を構えている。
カリファ工業地域（KIZAD）	● アブダビの工業化政策の一環として、製鉄、アルミニウム、製紙、食品、医療、ガラスなどの大規模な製造業を主な対象業種としているフリーゾーン。 ● 国内外の市場へアクセスできる港湾に隣接し、空港や主要幹線道路へのアクセスが良い。鉄道敷設計画もある。 ● エミレーツ・グローバル・アルミニウムを始めとしたアルミ産業の集積が存在。 ● 日本の JFE スチールとアブダビ国営企業 Senaat 社による合弁企業である Al Gharbia Pipe Company が鋼管工業を開設。
マスダール・シティー（Masdar City）	● アブダビの政府系投資会社であるムバダラ(Mubadala)社の子会社であるマスダール社によるプロジェクトで、約 6 平方キロメートルの規模を有する。 ● 再生可能エネルギーおよび持続可能エネルギー関連技術、太陽光産業、金融、科学、教育、小売業、これらの部門で運営されるサービス業（コンサルタント）などのビジネスを主な対象業種としている。 ● Siemens、General Electric 等の企業が拠点を構えている。
トゥーフォー54（Twofour54）	● アブダビにけるメディア産業向けのフリーゾーンで、テレビ、ラジオ、映画、出版、オンライン、携帯アプリ、音楽、ゲーム、アニメーションなどの産業の活性化を目的としている。 ● Sky News、CNN、 BBC、Thomson Reuters, Cartoon Network などの企業が拠点を構えている。
アブダビグローバルマーケット（Abu Dhabi Global Market）	● アブダビのアル・マリヤ島に位置し、金融サービス業を対象業種としている同首長国内で最も新しいフリーゾーン。 ● 同国内の金融サービス環境の変革を目指しており、外国企業をこれらの金融フリーゾーンに誘致し、地域全体にビジネスを拡大するためのゲートウェイとなることを目的としている。

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

また、フリーゾーン以外にもアブダビ市南部にはムサファ（Mussafah）地域にインダストリアルシティ(ICAD, Industrial City of Abu Dhabi)と呼ばれる工業団地がある。この工業団地はゾーン社(Zones Corp)という国営企業により運営されており、前述のフリーゾーンと同様に電力・水道等のインフラやオフィス・倉庫等の設備が整っており、現在 160 社以上が拠点を構えている。代表的な企業としてはUAE 最大の電炉メーカーであるエミレーツ・スチールが立地しており、日本の ADEKA もこの ICAD に拠点を構えている。

物流インフラとしては、2 つの主要港湾および国際空港が 1 つ存在する。前者のうちザーイド港はアブダビ市内に位置し、かつてはアブダビの主要港湾であった。このザーイド港は後述するカリファ港の運営開始に伴いクルーズ船発着港に機能を替えており、2015 年後半に最先端のクルーズターミナルがオープンしている。2 つ目のハリーファ港は前述の KIZAD に隣接しており、72 億米ドルを掛けて 2012 年に新設された、最新鋭の設備を備えた港湾となっている。アブダビ国際空港は年間 2,000 万人が利用する中東地域の主要なハブ空港の一つであり、現在 742,000 平米の大型ターミナルの新設工事が進められている。ここを拠点としているナショナル・キャリアのエティハド航空は日本を含めた世界各地 100 都市以上に就航している。

3．アブダビ首長国のビジネス機会

前述の通り、アブダビは従来の石油依存型経済からの脱却を目指して産業の多角化を推進しており、様々な産業に特化したフリーゾーンを設置することで、外資系企業の誘致を図っている。また、工業団地を整備し、製造拠点としてもビジネスを展開しやすい環境を整えている。ここでは、製造業におけるビジネス機会、そしてアブダビが近年注力している再生可能エネルギーの状況、そしてアブダビにおいて開催されている展示会について紹介する。

製造業に関するビジネス機会、ビジネス展開事例をいくつか述べる。まずアブダビの基幹産業である鉱業に絡み石油化学産業について述べると、アブダビ国営石油(ADNOC)が前述のルワイス地域における石化プラントの拡張を計画しており、今後は高付加価値な誘導体の生産を目指していくものと考えられるため、そうした技術や製品を有する企業にとっては、アブダビ側の需要とうまくマッチするだろう。次に、前述のとおり日本の鉄鋼業に展開事例があり、JFE スチールがアブダビ国営企業との合弁で工場を構えている。これはパイプライン用のラインパイプを加工・製造するための工場であり、こうした石油・ガス産業向けの製品製造には今後もチャンスがあるものと考えられる。最後にアルミ産業に関して、アブダビには世界でも有数のアルミ精錬企業であるエミレーツ・グローバル・アルミニウムが立地しており、彼らが生産する地金を加工するといった、中流から下流の産業にビジネス機会が存在する。アブダビは特にアルミ産業に力を入れており、例えばこれまで輸入していたアルミナも自前で製造すべく、現在 KIZAD の中でアルミナ精錬工場の建設が進められている。ただ一方で、現在アブダビにはアルミの押出加工をする企業、そしてケーブルを製

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

造する企業はあるものの、圧延機能を持つ企業が存在していないため、アルミ関連の製品の製造はそれほど多くないというのが実情である。今後アブダビにおいて圧延が開始されれば、更に多くのアルミ企業が集積していくものと考えられる。

アブダビでは石油・ガス分野の新規プロジェクトや既存設備の拡張プロジェクト等が継続的に実施されている一方で、再生可能エネルギーへの取り組みも積極的に実施されている。前述のマスダール・シティーは、ゼロエミッションの都市を創るという壮大な計画のもとに建設されたもので、現在でも様々な再生可能エネルギー関連のフィージビリティ・スタディが実施されている。また、アブダビはこのマスダール・シティー内に国際再生可能エネルギー機関（IRENA）の本部の誘致に成功しており、IRENA の総会は毎年アブダビにて開催されている。日系企業が参画する再生可能エネルギープロジェクトの例としては、スワイハン太陽光プロジェクトが挙げられる。同プロジェクトはアブダビ水電力公社（ADWEA）、丸紅、JINKO SOLAR（中国の太陽光発電パネルメーカー）が出資し、アブダビから 120km ほど離れたスワイハン地区において実施されている IPP 事業である。本プロジェクトは、発電容量は 1.17GW となる予定で、豊富な日射量、政府提供の大規模な土地、法人税環境等の条件及びパネル価格の競争力並びに技術革新を背景に、発電量単価は 3 米ドルセント／kwh を下回る価格を達成する見込みである。

展示会に関してはドバイと同様、アブダビにおいても世界規模のものが複数開催されており、中東やアフリカ・インド地域をはじめとした外国人バイヤーが数多く訪れる。アブダビで開催される多くの展示会はアブダビ市内のアブダビ国営展示センター（ADNEC, Abu Dhabi National Exhibition Center）において開催されている。アブダビで開催される主要な展示会の概要を以下に記載する。

表③　アブダビで開催される主要な展示会　　（出所：各展示会公式サイト等より作成）

名称	概要	2018 年実績概算
ワールド・フューチャー・エネルギー・サミット (World Future Energy Summit)	● 毎年 1 月～2 月、アブダビ・サステナビリティ・ウィーク期間中に開催される展示会で、持続可能エネルギー、モビリティ、省エネ、環境配慮型建築等をテーマとした B2B イベント。 ● 企業ごとのブースが設置され、小規模なデモ機等の展示も行われている。	来場者数 - 35,000 人 出展社数 - 900 社
アイデックス（IDEX）	● 世界最大の軍事・防衛産業に関する展示会で、毎年 2 月頃に開催されている。 ● アブダビ首長国の皇太子であるシェイク・ムハンマド主導の下で開催されており、年々規模が拡大されている。	参加国数 - 34 カ国 出展社数 - 122 社
アディペック（ADIPEC）	● 世界最大級の石油・ガス産業に関する展示会で、毎年 11 月頃に開催されている。 ● 中東のみならず、世界中からオイルメジャーそして石油・ガス関連のエンジニアリング会社がブースを出展する。	来場者数 - 145,000 人 出展社数 - 2,200 社

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

シアル・アブダビ（SIAL Abu Dhabi）	● 世界最大の国際食品見本市、パリ「SIAL」の中東版で、毎年 12 月頃に開催されている。 ● 食品、飲料、食品関連機器に関する展示会で、来場者数は毎年 30%程度増加傾向にある。	来場者数 - 20,000 人 出展社数 - 1,000 社

最後に、アブダビはUAEの各首長国のなかで最も一人当たりGDPが高く、観光産業振興等も進むなかで消費市場の拡大が期待されている。以下、現在の主要なショッピングモール等の情報を取りまとめる。

表③　アブダビの所要な消費施設　　(出所：各施設ウェブサイト等より作成)

ヤス・モール (Yas Mall)	235,000 平米、2014 年にオープンした 370 店舗以上のテナントと約 70 店舗の飲食店を擁するアブダビで最大級の規模を誇るファミリー・エンターテイメント・モール。アブダビ最大手ディベロッパー、アルダール社がオーナー。市街からは離れているが、新しい開発エリアの中心部に立地。中所得層以上がターゲット。
アブダビ・モール (Abu Dhabi Mall)	約 200,000 平米、200 店舗以上のテナントとレストランがあり、市内中心部に位置している。2001 年にオープン。首長家のシェイク・スルールがオーナー。アブダビ・コープもあり、UAE 自国民も含め様々な客層に人気のある庶民的なモール。
マリーナ・モール (Marina Mall)	122,000 平米、400 店舗以上、2001 年にオープン。アブダビ市街沿岸のコーニッシュ・エリアの開発をメインに進めている開発会社ナショナル・インベストメント・コーポレーションにより経営されている。ハイ・ブランドの店舗もあるが、庶民的なブランドも多数あり、スポーツ・エンターテイメント設備も充実している。
アルワハダ・モール (Al Wahada Mall)	122,000 平米、350 店舗以上、2007 年にオープン。インド系財閥のルル・グループ・インターナショナルが経営している。町の中心部に位置する庶民的なモール。ルル・ハイパーマーケットの大型店舗も入っている。
ザ・ギャレリア (The Galleria)	33,000 平米、130 店舗以上。2013 年にオープンしたハイエンドなモール。一部のレストランではアルコールも提供している。アブダビ国営会社のムバダラとガルフ・リレーイッドによってオープンし、アブダビの新しいビジネスエリアに位置している。約 50 のブランドがアブダビに初進出。
ザ・スーク＆ザ・モール (The Souk &The Mall at World trade Centre Mall)	60,000 平米、160 店舗。ワールド・トレード・センターエリアにアブダビ一高い建物の一部として 2014 年にオープン。アブダビ最大手ディベロッパーのアルダールがオーナー。ザ・スークは、昔からのセントラル・スークの跡地ということもあり、アラブ古来のスークをイメージした作りで、伝統的な小物及びお土産品、宝石、アラビック香水などを販売。ハリーファ橋で接続するザ・モールは、近代的な総合モール。
マシュリフ・モール (Mushrif Mall)	56,000 平米、200 店舗以上,2014 年にオープン。インド系財閥のルル・グループ・インターナショナルが経営している。魚介類、肉類、野菜のエリアに分かれた 25,000 平米の市場風のエリアもあり、地元の人々が大量の食料品の買い物をしている。中東一大きなフード・コートを持つ。

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

以 上

UAEアブダビ首長国の概況とビジネス機会（2019年2月作成）

UAEプラットフォーム・コーディネーター：ksn Research & Consulting, GEN Events LLC
日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所
35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

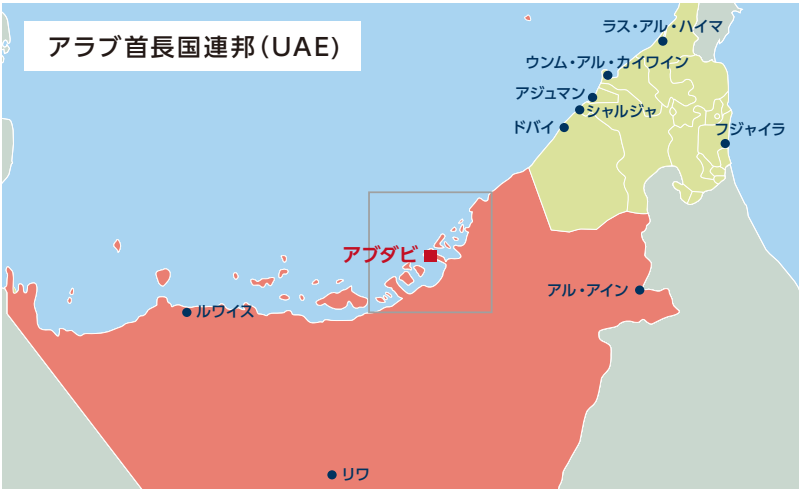
【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。ジェトロではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

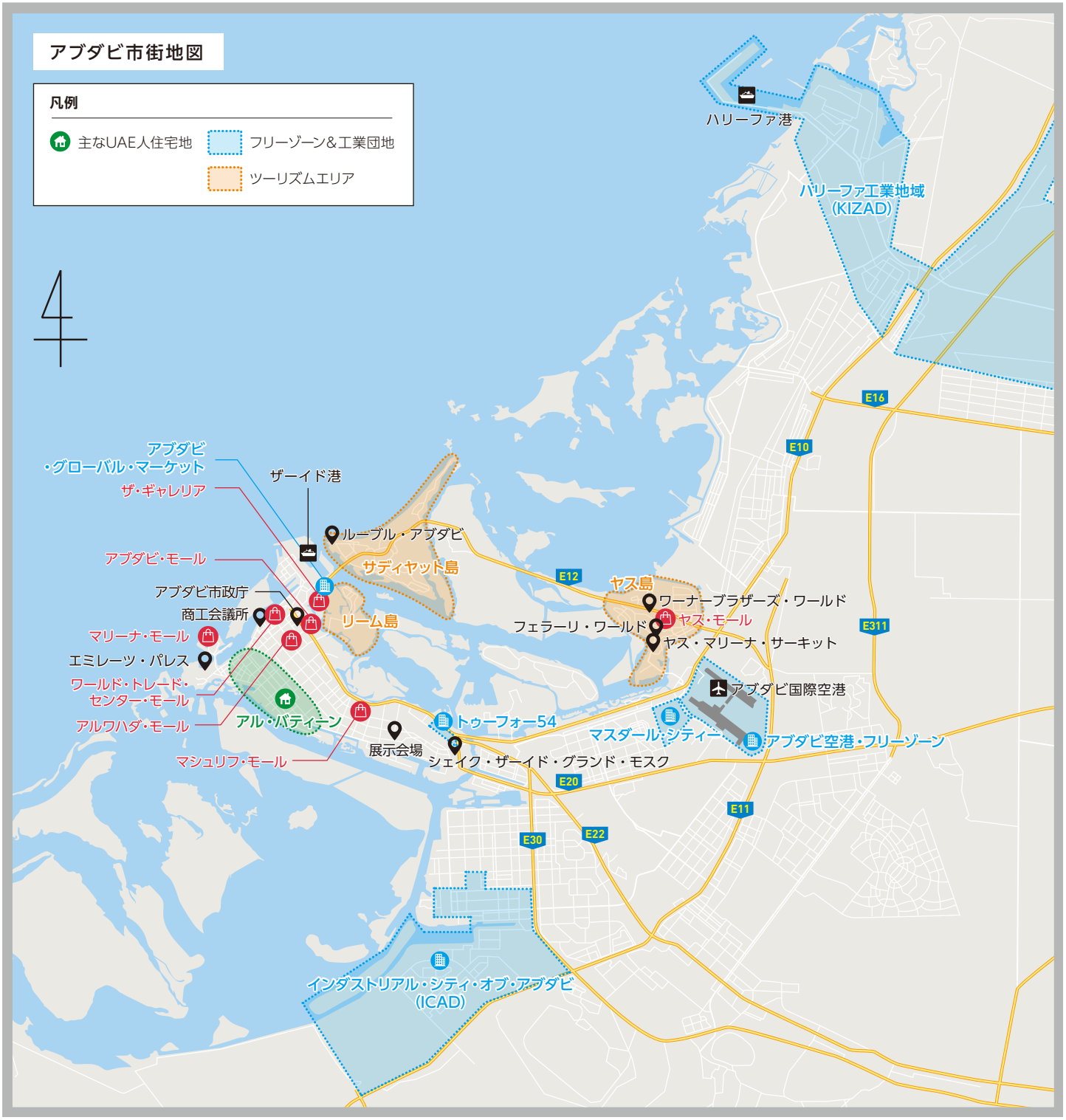
Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

アブダビ首長国

基本情報

首長家 …… ナヒヤーン家
面　積 …… 67,340㎢
名目GDP …… 2,620億USD (2014)
人　口 …… 291万人 (2016)
自国民人口 …… 40万人 (2010)





Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.